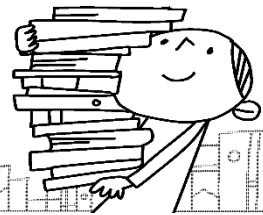


みんなでつながる わ!



今回は5年2組の公開授業です。5年2組は、社会で自然災害から暮らしを守る工夫や対策について調べ学習を行い、話し合いました。

自然災害から暮らしを守る工夫を話し合おう!
「国土の自然とともに生きる」 5年生

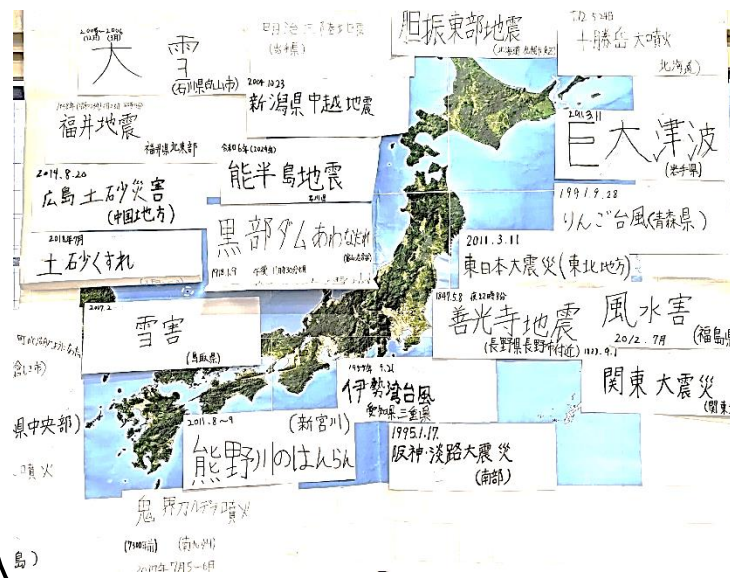
本時の目標

- ・ 国土の自然災害の発生と自然条件との関連、防災や減災に向けた対策や事業の役割について多角的に考え、わかりやすく表現する力を養う。 (思考・判断・表現)

本時の流れ (本時4 / 5)

- ① 日本の国土と地形・気候・災害との関係をまとめた日本地図を見て、前時をふり返り、めあてを確認する。
自然災害から暮らしを守る工夫を話し合おう。
- ② 自分が選んだ災害について話し合う。
○調べたことを交流する。
・ 同じ災害を選んだ児童同士で交流。
・ 対策や環境など調べたことを比較する。
- ③ 交流したことを全体共有する。
- ④ 本時の学習をふり返る。
・ 自然災害や公共事業、人々の暮らしの工夫を関連付けて考えることができたか。

2時で出し合いまとめた日本地図



調べ学習の内容

【東日本大震災地震】 (東北地方)

いつ・なぜ起こった?
2011年 (平成23年) 3月11日 14時46分に起こりました。

東日本大震災が起こった主な原因は、海底にある巨大なプレートのズレです。

どんな被害?
1. 人的被害 (命に関わる被害)
死者・行方不明者は合わせて約2万2000人です。
2. 建物の被害
家が壊されたり流されたりした数は全壊・半壊あわせて約40万戸をこえます。

どんな対策や備えがされた?
2. コミュニティ・学校の備え・避難の訓練
・ 防災教育の徹底: 小中学生が自らの判断で避難して助かった事例を教訓に、学校での避難訓練や防災教育が全国で強化された。

そのほか調べてわかったこと
1. 「ともだち作戦」による国際支援
世界160以上の国・地域、40以上の国際機関から支援が寄せられた

【阪神淡路大震災地震】 (近畿地方)

いつ・なぜ起こった?
1995年
1月17日午前5時46分
淡路島北部から神戸市直下を走る「六甲・淡路」を震源とした「活断層」

どんな対策や備えがされた?
耐震基準の大幅な強化、緊急消防援助隊の整備、ボランティアの受け入れ体制構築などの対策がされた。

そのほか調べてわかったこと
深刻な被害だったからこそ次からはちょっとでも被害を抑えるために、国は災害対策基本法を大きく改定し、1963年にできていた防災基本計画を拡充した。

極めて深刻

前時に、一人ひとり調べたことをロイロノートに書き込み、それをもとに交流しました。

グループ交流の様子



同じ災害を選んだ

児童同士で交流

同じ災害でも、場所によってちがった対策をしていることや、場所が違っていても似ているところ、などを交流しました。

タブレットを見せ合いながら、話し合う姿が見られました。同じタブレットを見て交流することで、相手の反応を見て話すことができました。



自然災害

④ 自然災害からくらしを守る工夫を話し合おう!

① 調べたことを伝えよう。

- ・なぜ起こったかが同じ(火山)
- ・「プレート」が同じ(地震)
- ・「命を守る」が同じ
- ・備えがらかった

③ 話し合っ、気づいたこと考えたこと

「対策で大切だと思ったこと」

災害	発生しやすい場所は?
地震	南側、海底、プレートがある所 太平洋側、どこでもおこる
津波	海の近く、太平洋側 川

自然条件

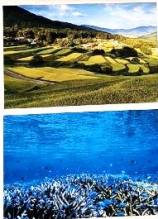
自然条件... 地形、気候(天気)

掲示・板書

日本の自然

発電、漁業、観光
原材料、林業、農業

- ・山 → 静岡県(富士山)
- ・川 → 阪南河(男里川)
- ・海 → 太平洋、日本海、沖縄県、和歌山県
- ・湖 → 滋賀県(びわ湖)
- ・砂丘 → 鳥取県、青森県
- ・森 → 長野県、
田んぼにもなる
- ・水



自然の力(災害被害)

- ・地震
- ・大雪
- ・火山のふん火
- ・台風
- ・土砂くずれ
- ・山火事
- ・なだれ
- ・たつ巻
- ・大雨、こう水
- ・津波
- ・白化現象
- ・はんらん(川)
- ・干ばつ、干ばつ
- ・地球温暖化にもつながる
- ・飢饉にもつながる

自然災害

【研究協議より】

① 本日の授業について

- ・活動を通してみんながつながっていた。授業者の的確な指示がとても良かった。
- ・掲示が学習を振り返る手立てとしてよかった。テーマを児童が決めることができていたのが児童主体で良かった。
- ・タブレットを活用していると、画面とにらめっこになってしまうが、今回は相手の目を見て交流できていた姿が良かった。みんなが見やすいように資料の見せ方を考えながら話したり、友達の意見を吸い上げて発言したりする姿も見られた。
- ・頭を寄せ合って話をしようとする姿が見られて良かった。ロイロで共有する活動は、中学校では見られない活動だったので、学級活動に活用できそうだ。
- ・調べた情報の文量や話し合うことが多すぎて内容の共有や比較が難しそうだった。文量を少なくしたり、似ているところに線や丸を書いたりして、視覚的にわかりやすくしてから交流するなど、対策がまだまだありそうだ。
- ・「対策」にピックアップして話し合いを進めればよかった。
- ・グループ分けによって活発なグループと静かなグループとの差が大きくなるので、グループ

分けが重要だ。

- ・時間配分や活動内容への対策として、ゴールが「自然災害からくらしを守る工夫を話し合おう!」なので、「自分ができることはなにか?」につなげるのはどうだろうか。
- ・「自然災害で、このような被害があったため、〇〇のような対策がされてきた」ということを事前にまとめてから、「自分たちのくらしを守るための対策はなんだろう」という問いにつなげる活動の進め方も方法としてある。

② 協議の柱に関する「工夫」や「手立て」などについて

- ・話し合い活動で中学校では「T」字型に机を置いている。話し合いと並行して作業も進めやすい。
- ・全体での話し合いの場面では、友だちの意見をよく聞こうとしている姿もあり、全員の顔が見やすいコの字型にしている。いつもと違う環境だと児童がより一層頑張ることができる。
- ・「児童(生徒)同士の繋がり」をテーマにしている。話し合い活動・ペア学習を行い、まずはとなりの子からキーワードに取り組んでいる。授業の展開のなかでペア学習を何度も取り入れることで、ある程度意見や話し合いができるようになってきた。班活動での話し合いの仕方を学校で統一し、話し合いの基礎の部分の部分を大事にしている。
- ・子どもが1回は話す機会を作る。意見と根拠をセットに伝えられるように、話し合いの前に準備段階を設ける。
- ・教科や生徒によってペア学習にしたり、授業の中で自由に移動をして教え合ったりさせている。
- ・自由に動いたりできる授業設計は話し合いを活発にさせる手段の一つ。ただ、国語科という教科の中で座って教科書を開いて話をするという時間は必ず設けたい。どこかに絶対座ってから話し合いを始めるように指導している。
- ・単元のゴールに向かうための話し合いを行っている。台本のような見本を黒板に掲示することで、スムーズに話し合う姿が見られた。ベースを作らないと1年生の話し合いは難しい。
- ・本校の児童は書くことに抵抗があるので、まずは思ったことを伝え合うようにすることで、友達の意見をもとに意見を書くことができるようになってきた。
- ・話し合う前段階で、うまく気持ちを伝えることが難しい児童に対して、教師が聞き取り、一緒に伝える指導を行ってきた。伝わることの嬉しさを感じ、自分から話そうとする姿が多く見られた。

～授業者から～

自然災害について自分事として考え、さらに考えを深めていけるよう、過去に起こった災害をもとに調べ学習をしました。子どもたちが興味をもってどんどん調べ、想像以上にたくさんの災害の種類を取り上げることができたことが良かったです。他教科でも取り組んでいる交流の場面では、活発に話し合いができていました。シンキングツールを使って、考えを視覚化して簡単に動かすことができたことも、話し合い活動では効果的でした。